

まえがき

鄭 潤澈¹

本論集は、2024（令和6）年度慶應義塾学事振興資金（研究科枠）による慶應義塾大学大学院商学研究科プロジェクト「「市場」の機能と役割に関する再考察」の研究成果をまとめたものである。

人類の歴史のなかで古今東西を問わず存在してきた「市場」には、人間の社会性と経済性が反映されている。科学と技術の進歩に伴い、市場の機能と役割は合理的かつ効率的な方向へ発展を続け、世界が1つのグローバル市場になろうとしている反面、市場の健全な発展を阻害する様々な否定的な要因も増加してきた。特に、昨今の自然環境や社会情勢、国際政治等は激しく変動しており、市場内外の諸要素、例えば、企業、消費者、利害関係者及び公的機関、商品、貨幣、情報等にも様々な変化が生じている。このような現代の市場経済の本質に対して多角的側面からアプローチし、今までの市場の姿とは異なる、今から果たすべき市場の機能と役割について再考察することによって、持続可能な市場経済のために必要なものには何があるかを多面的に検討することは重要である。こうした問題意識に基づき設定された主課題「「市場」の機能と役割に関する再考察」に対して、商学の各分野の視点に即したサブ課題が設定され、それぞれの分野の大学院生が指導教授の助言のもとに理論的・実証的分析を行った。

各プロジェクトの成果は、2025年7月1日（火）に開催された研究成果報告会において報告された。当日の会場では活発な質疑応答が行われ、報告者の各大学院生は専門分野のみならず異なる分野の視点からのコメントを受けて非常に多くの刺激を受けたようである。それらを糧として各自の研究が今後さらに進展することを大いに期待したい。

本論集には、当日の報告のもとになった論文8編を収録した。これらは今後、学術雑誌への発表などを目指して各著者により加筆修正される可能性がある。したがって、これらからの引用を希望する場合には、事前に各著者へご連絡いただけるようお願いする。

¹ 2024年度研究プロジェクト・コーディネーター（研究代表者）、慶應義塾大学大学院商学研究科委員